

横浜港港湾計画改訂の検討状況について

1 検討経過

横浜港港湾計画の改訂に向けて、横浜市民、港湾関係者、学識経験者、関係行政機関及び本市関係部局で構成する「横浜港港湾計画検討部会」や「市民意見募集」でいただいた意見を参考にしながら改訂原案の作成を進めてきました。

○横浜港港湾計画検討部会

計 5 回開催（平成 24 年 10 月 26 日～平成 26 年 1 月 28 日）

○市民意見募集 【リーフレット参照】

- ・パブリックコメント（平成 25 年 11 月 11 日～12 月 10 日）
- ・ヨコハマ e アンケート（平成 25 年 11 月 11 日～11 月 25 日）

2 市民意見募集 【別紙 1 参照】

意見数：180 件

主な意見

- ・国際競争で生き残るため、新規ふ頭などの施設を早急に整備するべきである。
- ・大型客船の寄港は経済効果が大きいので、是非実現して欲しい。ベイブリッジを通過出来ない超大型客船への対策も急いで欲しい。
- ・防災対策については、目標年次(平成 30 年代後半)を前倒して取り組むべきである。

※いただいたご意見とそれに対する本市の考えを港湾局のホームページで公表してまいります。

3 横浜港港湾計画検討部会

第 5 回横浜港港湾計画検討部会において、改訂原案については、大きな方向性はまとまっているが、細部について調整したうえでより良い最終案を形作っていくよう努力してほしいと部会長により取りまとめられました。

4 今後の進め方

今後は横浜港港湾計画検討部会での議論や市民意見を踏まえ、国や関係者等と調整しながら改訂(案)を策定していきます。策定後は、速やかに横浜市港湾審議会へ諮り、平成 26 年中の改訂に向けて手続きを進めていきます。

横浜港港湾計画の改訂案に関する市民意見募集

ヨコハマの港湾計画に あなたのご意見を!

平成25年11月11日(月)~12月10日(火)



現在の横浜港

『横浜港港湾計画』は、一定の水域(横浜港港湾区域)と陸域(横浜港臨港地区)からなる空間において、計画的に開発・利用・保全を行うため、港湾管理者である横浜市が、港湾法に基づいて定める基本的な計画であり、現行計画は平成18年に改訂したものです。

社会情勢の変化や横浜港を取り巻く環境の変化を踏まえ、「横浜港の目指すべき姿」や「求められる取組」を実現するため、『横浜港港湾計画』の改訂を予定しています。目標年次を平成30年代後半とする次期港湾計画をより良い計画にするためたくさんのご意見をお寄せください。

横浜港を取り巻く環境の変化

国際コンテナ戦略港湾の
早期実現に向けた取組

横浜港の魅力向上や
水際線の市民開放

臨海部における
防災機能の更なる強化

横浜港の目指すべき姿

国際競争力のある港

横浜経済の活性化と
市民生活を豊かにする
総合港湾づくり

市民が集い、憩う港

安全・安心で環境にやさしい港

求められる取組（検討項目）

〈目標年次〉

概ね10年後の平成30年代後半

① 公共ふ頭計画

② 新規ふ頭計画

③ 臨港交通施設計画

④ 臨海部における賑わい創出

⑤ 山下ふ頭の再開発

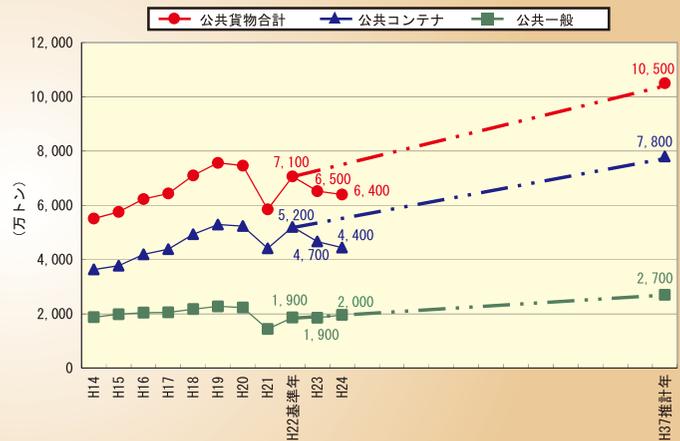
⑥ 旅客船ふ頭計画

⑦ 大規模地震対策施設

⑧ 環境保全

目標貨物量

	基準値 (平成22年)	目標値 (平成30年代後半)
公共全体貨物量	7,100万トン	10,500万トン
うちコンテナ貨物量	5,200万トン	7,800万トン
コンテナ個数	328万 TEU	518万 TEU



国際競争力のある港

① 公共ふ頭計画

《我が国を代表する物流港湾として、市民生活や地域経済を支えています》

【コンテナふ頭】

世界の海運動向や利用者ニーズを踏まえ、コンテナ船の大型化や、貨物量の増加に対応していきます。

先進的な施設整備や既存施設の再編を進め、コンテナ取扱機能を強化します。[本牧ふ頭、南本牧ふ頭、新規ふ頭]



● 本牧ふ頭BCコンテナターミナル

【一般貨物ふ頭】

主力品目である完成自動車など、一般貨物を効率的に取り扱うようふ頭機能の転換や強化を行います。

[大黒ふ頭、本牧ふ頭 A 突堤]

② 新規ふ頭計画

《臨海部に新たな物流拠点を形成します》

今後増加する貨物や物流の高度化・効率化に対応するため、本牧沖に新たなふ頭を計画し、大水深・高規格コンテナターミナルを配置します。輸出入機能を強化するため、ロジスティクス機能を確保していきます。

埋立には、市内から発生する公共建設発生土を有効活用し、今後の都市基盤整備を長期的かつ安定的に支えています。



● 南本牧ふ頭

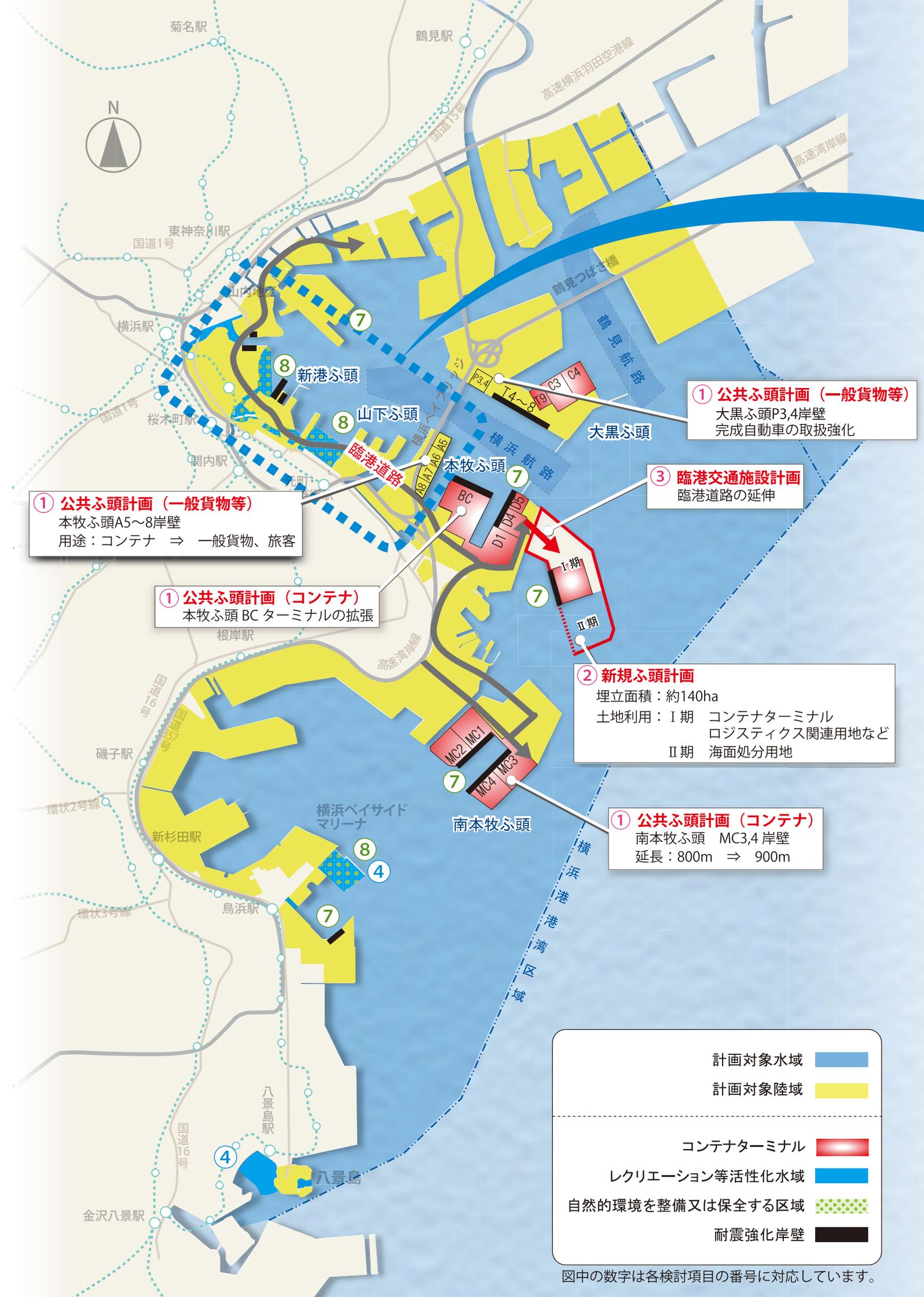
③ 臨港交通施設計画

《物流機能を向上させるとともに、市街地の交通混雑を緩和します》

広域道路ネットワークの整備が進む中、将来にわたって発生する交通量を円滑に処理するため、ふ頭間の連絡機能を強化するとともに物流交通の市街地への流出を抑制します。



● ふ頭間を連絡する臨港道路



① 公共ふ頭計画（一般貨物等）
 本牧ふ頭A5~8岸壁
 用途：コンテナ ⇒ 一般貨物、旅客

① 公共ふ頭計画（コンテナ）
 本牧ふ頭 BC ターミナルの拡張

① 公共ふ頭計画（一般貨物等）
 大黒ふ頭P3,4岸壁
 完成自動車の取扱強化

③ 臨港交通施設計画
 臨港道路の延伸

② 新規ふ頭計画
 埋立面積：約140ha
 土地利用：Ⅰ期 コンテナターミナル
 ロジスティクス関連用地など
 Ⅱ期 海面処分用地

① 公共ふ頭計画（コンテナ）
 南本牧ふ頭 MC3,4岸壁
 延長：800m ⇒ 900m

- 計画対象水域
- 計画対象陸域
- コンテナターミナル
- レクリエーション等活性化水域
- 自然的環境を整備又は保全する区域
- 耐震強化岸壁

図中の数字は各検討項目の番号に対応しています。

市民が集い、憩う港



安全・安心で環境にやさしい

⑦ 大規模地震対策施設

《発災時に市民の皆様安全と生活を守ります》

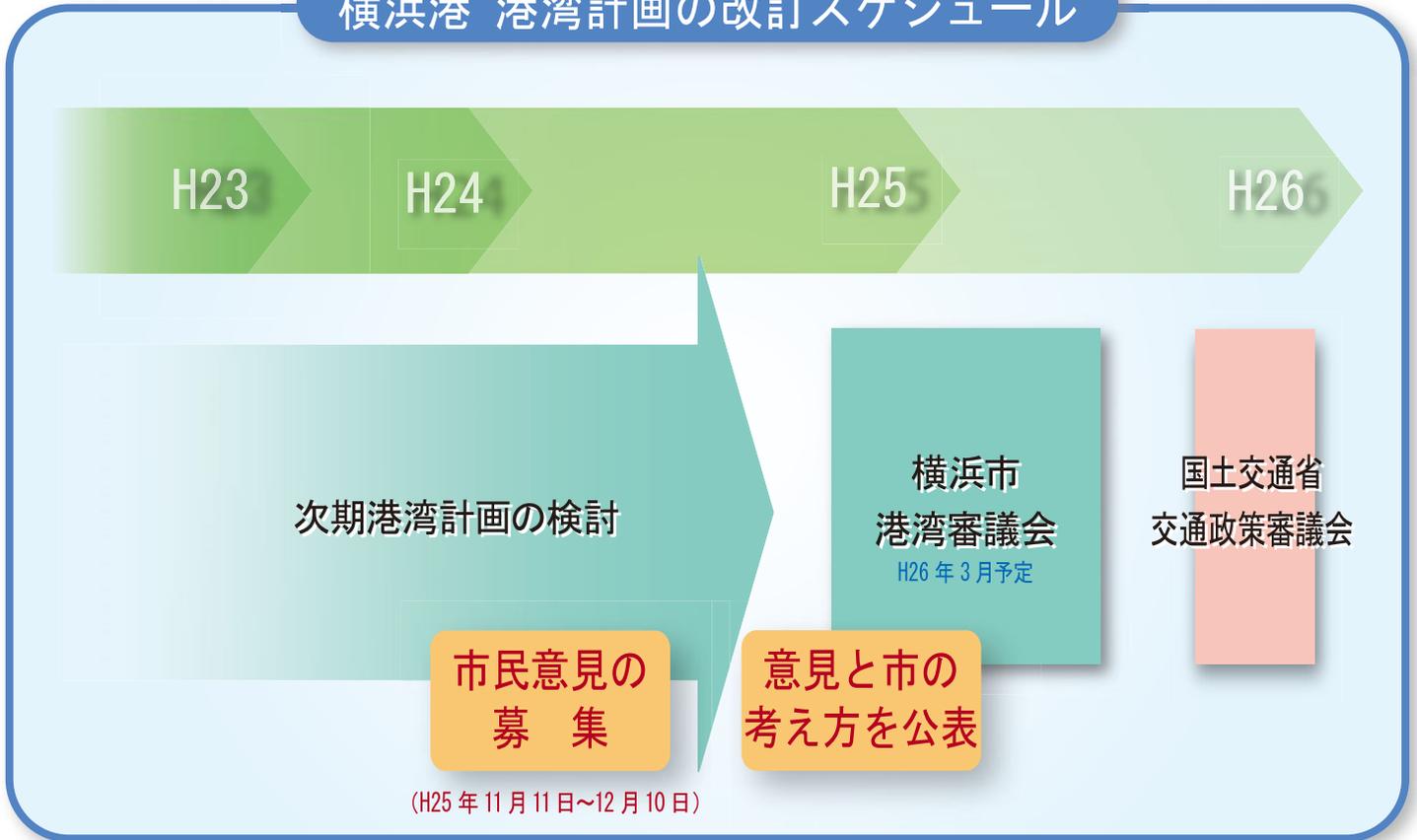
緊急物資の受入を行う海上輸送の拠点として、耐震強化岸壁（12バース）を適切に配置します。発災後の物流機能を維持できるよう、大型コンテナ船が着岸できる水深16m以上の岸壁（9バース）を耐震強化岸壁にします。

⑧ 環境保全

《親しみやすく美しい横浜港の環境を次世代に引き継いでいきます》

市民の皆様や企業などと協働し、水質改善・緑地の確保、温暖化対策などに取り組んでいきます。自然的環境を整備又は保全する区域を中心に、藻場の育成やアマモ場の再生など多様な生物が生息水辺環境を創出します。[内港地区、金沢地区]

横浜港 港湾計画の改訂スケジュール



(H25年11月11日~12月10日)

意見の提出方法

ご意見は、住所・氏名を明記の上、左のハガキをご利用になり郵送していただくか、ファクシミリや電子メールにて下記の宛先までお寄せください。

また直接持参する場合には住所、氏名を明記の上、横浜市港湾局企画調整課までお持ちください。

＜ファクシミリ＞ 045-671-7310

＜電子メール＞ kw-kaitei@city.yokohama.jp

募集期間

平成 25 年 11 月 11 日 (月)～
12 月 10 日 (火)

※郵送の場合は 12 月 10 日 (火) の当日消印有効です。

- お寄せいただいたご意見については、市の考え方と併せてホームページで公表します。
- 「お電話でのご意見の受付」および「ご意見への個別の回答」はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- お寄せいただいた情報については、意見募集の用途以外には使用いたしません。

きりとり
郵便はがき

2 3 1 8 7 9 0

0 2 3

横浜市中区山下町2番地
(産業貿易センタービル5階)

横浜市港湾局企画調整課 行



料
金
受
取
人
払
郵
便

横浜港局
承認

8353

差出有効期間
平成25年12月10日
まで

(ふりがな) 氏名	
住所	〒 _____



昭和50年代前半の横浜港

横浜市史資料室所蔵

● お問い合わせ ●

〒231-0023 横浜市中区山下町2番地（産業貿易センタービル5階）

横浜市港湾局企画調整課

電話 045-671-7300 ファクシミリ 045-671-7310

電子メール kw-kaitei@city.yokohama.jp

ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/>

平成 25 年 11 月発行

横浜港港湾計画の改訂案に関する市民意見募集について

1 実施概要

(1) パブリックコメント

「横浜市パブリックコメント実施要綱」に基づき実施

意見募集期間	平成 25 年 11 月 11 日（月）～12 月 10 日（火）
改訂案(リーフレット)の配布場所	各区役所、市民情報センター(市庁舎 1 階)、地区センター、図書館、港湾局ホームページ 等

(2) ヨコハマ e アンケート

インターネットで行う市政に関するアンケート

意見募集期間	平成 25 年 11 月 11 日（月）～11 月 25 日（月）
--------	-----------------------------------

2 実施結果

意見数		180 件			
内訳	①公共埠頭計画	28 件	⑥旅客船埠頭計画	21 件	
	②新規ふ頭計画	6 件	⑦大規模地震対策施設	10 件	
	③臨港交通施設計画	4 件	⑧環境保全	18 件	
	④臨海部における賑わい創出	23 件	その他	62 件	
	⑤山下ふ頭の再開発	8 件			

3 主な意見

(物流)

- 国際競争で生き残るために公共ふ頭、新規ふ頭を早急に整備するべきである。
- 釜山港などに対抗できるハブ機能の強化が必要である。
- 貨物を集荷するためには、広域輸送網との直結が必要である。

(賑わい)

- 山下ふ頭に市民が憩える緑地、野外音楽が楽しめる施設、子供達が思い切り楽しめる施設等を作って欲しい。
- 大型客船の寄港は経済効果が大きいので、是非実現して欲しい。ベイブリッジを通過出来ない超大型客船への対策も急いで欲しい。

(環境・防災)

- 水質浄化の取組を行う地区を増やしたほうがよいのではないか。
- 防災対策については、目標年次(平成 30 年代後半)を前倒して取り組むべき。

(その他)

- 瑞穂ふ頭を返還してもらい、IR リゾートとして開発するべきである。

4 今後の対応

いただいた御意見とそれに対する本市の考え方を、港湾局のホームページで公表してまいります。また、御意見を参考に計画の改訂原案を作成していきます。

横浜港港湾計画改訂案に関する市民意見募集 提出意見一覧

①公共埠頭計画

- 国際競争で生き残るために公共ふ頭、新規ふ頭を早急に完成させるべきである。(3件)
- おおむね現在の案で良いと思う。ただ、市民に開放された港というよりも、まず港として、国際競争力をつけることが第一義であるように思います。(3件)
- 韓国などに対抗できるハブ機能の強化が必要である。
- 達成時期の前倒し 10年後⇒7～8年後。(海外と比較しての遅れ取戻し)
- 本牧ふ頭のバンプールの充実を望む。
- 目標貨物量は実績推測値ではなく上乘せして計画すべき。
- 完成自動車などを取り扱える岸壁を整備し、多くの船が着岸できるようにしたい。
- 国際競争力を取り戻すなら、通関の迅速化、省力化によるコスト削減、24H/365D 運転などの利便性向上に繋がる計画とすべき。
- ハード面よりソフト面に力点を置くべき。
- 南本牧は、たとえば、ベイブリッジを通れない大型客船の受入場所となると思われるが、対象船舶数がよく見えない。またニーズがあるなら、神奈川臨港鉄道の充実や旅客化を併記すべき。
- 平成18年当時の平成22年目標数値を明示して頂けないでしょうか。また、平成18年改訂計画の平成22年目標値と、実際、基準値となった値の差の総括をお願い致します。
- パンフレットで黄色の地域、計画対象陸域に、磯子・根岸地区、鶴見・神奈川地区が含まれています。この二つの地区は、公共施設であるか、教えてください。
また、この施設で石油タンカーらしき船舶が横付けされている写真をありますが、ここで陸揚げされる石油は「公共全体貨物量」に含まれるのでしょうか。
- 民間会社である「横浜港埠頭(株)」の「コンテナターミナル」も公共施設に含まれ、本牧ふ頭・大黒ふ頭におけるそれらのバース即ちコンテナターミナルに扱われているコンテナは、パンフレットの「公共全体貨物量」の「うちコンテナ貨物量」に含まれていると考えてよろしいでしょうか。
- コンテナ取り扱い量の予測がどのような根拠で策定されたのか？現状を鑑みたとき、余りにギャップが大きいです。コンテナ取扱予想の基本計画の熟度が低いと感じます。(5件)
- 航空輸送と海上輸送の関係が分からない。海上輸送のみの時代は過去のことである。

- 国内の企業が海外に進出している。東南アジア、中国、韓国等に工場を移しているから、それらの国のコンテナ取扱量が増えるのは当然。日本は人口減少期に入り、此の傾向は今後更に加速が予想される。巨費を投じてふ頭を整備しても、それに見合った取扱量が増えるとは考えられない。
- 港湾の貨物扱い量の予測が22年から30年後半と云うあいまいな期間設定での予測数字はあまりにもずさんな予測ではないか。仮に30年後半が38年とすれば、取扱高は22年の倍額を予測数字としてほしい。現計画案の数字では「わが国の経済産業を支える物流拠点」という自負心が何処にあるという感じ。
- コンテナターミナルのコストを下げ、**「国際競争力のある港」**として向上出来るよう御企画調整課、横浜市港湾局などで行政指導が出来ないのでしょうか。
- 岸壁水深18m必要な船舶は釜山港・上海港にお任せし、そこで積み替えて、この2港から日本に運ぶというシナリオを横浜市港湾局・貴企画調整課・国など行政として考えておられるならば教えて下さい。
- そもそも一地方都市である横浜市が国際的な港湾競争に打って出るということ自体が、無理なのではないでしょうか。きちんと国際競争を考えるならば、国際競争する相手はその国家を代表する港であるので、本来は日本国政府の直接的な関与をどう呼び込むかを、先ず考えるべきだと思います。

②新規ふ頭計画

- 新規ふ頭のコンテナバースは、連続バースとして、大型船が同時に利用できるような計画としてほしい。（2件）
- 埋立てにより新規コンテナふ頭を整備することと、本牧ふ頭A突堤のコンテナ利用を変更することは矛盾しているのではないか。（3件）
- 人口減少社会における需要予測が過大であり、新規埠頭を作るための数字合わせでしかない。残土処理問題など課題もあろうと思うが財政がひっばくしているおりでもあり、さらなる新規埠頭は不必要と思う。耐震補強などは言い出したらキリがない。

③臨港交通施設計画

- 日本の広範囲から集荷するためには、他府県と結ぶ高速道路・鉄道輸送・内航船輸送網との直結が必要になると思いますが、この計画にはそれが見当たりません。
- 臨港幹線は大震災時が起きた時海水が道路に流れ使えなくなる可能性があります。臨海部をつなぐ計画ではなく、臨海部から内陸方面に太い道路をいくつも作り、合わせてやや内陸にある道路を太い道路として拡充することができないか検討した方が良いでしょう。
- 羽田空港と横浜港の間の交通量の円滑処理対策をして欲しい。
- コンテナ車両が中心市街地を通行しない道路整備をしてほしい。

④臨海部における賑わい創出

- 八景島の現在使用されていないポンツーンをレジャーボートに開放して欲しい。地元の活性化につながる。

- 港内にプレジャーボートの姿が見えるような港町の景観を創造し、「港町ヨコハマ」のアピールポイントにすべきである。
- 子供たちが水面を利用できるような施設を港内に作ってほしい。体育の正課として利用するのも良いと思う。
- 海洋環境教育のためのイベントの充実を望みます。
- 改善すべき点ではないですが、横浜港の魅力をもっと市民に発信するのはいかがでしょうか。大人から子供まで楽しめるレジャー設備の充実も大歓迎です。日本丸付近でのシーカヤック教室のようなものが、もっと手軽なオープンな形であるといいと思います。
- 賑わいについて、カヌー・シーカヤックの他にディンギー（ヨット）を加えて欲しい。
- 横浜の港湾区域内にカイトボードを誘致してほしい。
- 賑わい施設として、ケーブルパーク（ウェイクボード競技施設）を設置してほしい。
- ウォーターフロントの早期実現を期待する。「海の駅」など、海といえば横浜、といえるような観光施設ができるとよいと思う。（3件）
- ふね劇場に協力してあげてほしい。
- 東京お台場の例のようにベイブリッジを経由し、横浜駅～MM～赤レンガ～大さん橋～山下～大黒を結ぶ「循環型」交通施設が必要。また、大黒の物流スペースの一部を観光スペースへ転換し、水上交通により横浜駅～大黒～大さん橋を結ぶべき。
- 内港地区、本牧地区、金沢地区がそれぞれ遠く、つながりが感じられないので、水上交通などで相互のアクセスを良くしてほしい。
- 民間企業を巻き込んで自動車道周辺の賑わい計画のプロジェクトチームを作り、全体計画を作成する必要がある。
- 横浜港の賑わい創出について、市民・地域企業参加型の水域と緑地の環境保全活動イベントや、地域だけでなく遠隔地の方からも興味をもってもらえるような多種多様なマリンレジャースポーツ・水中レクリエーションなどを提案します。
- 水際域におけるベネチア的な観光・水上交通網の整備計画が見当たりません。水上における様々な催し物、例えば水上市場、ゴンドラなどによる水上観光などに対応する水域の確保、バース、浮棧橋などの計画を考慮して入れて頂きたいをお願いします。
- ベイブリッジに囲まれた内湾部分の将来案が漠然としているように感じられます。USAのBOSTONの港湾部分の活性化案、オランダアムステルダムなども参考になるのでは。

- 「市民が憩い、集う場所」としての港について更なる具体策が必要だと思えます。現状港湾局が管理しているエリアについて、イベント等で使用する場合制約がとても多いです。しかも象の鼻パークを例にとっても近辺に水道がないなど使い勝手が悪く、改善すべき点が多々あると思えます。市民の声をもっと聞くべきではないでしょうか。
- 「市民が集い、憩う港」に横浜市中心卸売市場を加えて、もっともっと市民や観光客が楽しめる場所にしてほしい。
- 安全に市民が気軽に利用できる場所がほしい。
- 横浜港全体に於ける水際の一般市民への利用が余りにも少なすぎ、市民生活から遊離している。交通機関、公園、遊歩道、商業施設、自然環境との交流空間などもっと多様に利用できる開発計画であるべきだ。
- 改正案自体は良いが、漠然としすぎて具体性に欠ける。臨港交通網などは観光と実務的な交通を兼ねて横浜駅東口から大黒ふ頭などへ行ける便などを簡易にし、また香港のスターフェリーのようなシンプルで安く市民の足となるシャトル便（横浜駅～山下公園など）があると良い。

⑤山下ふ頭の再開発

- 山下ふ頭に市民が憩える緑地、野外音楽が楽しめる施設、子供達が思い切り楽しめる施設を作ってほしい。（2件）
- 山下ふ頭にドーム球場、釣り場等家族が楽しめる施設を作って欲しい。また、大型ショッピング施設等を誘致して欲しい。
- 山下埠頭再整備の一環として横浜ドーム建設計画の話があると聞いたが、ぜひ実現してほしい。
- 山下ふ頭は港湾事業から撤退し、その機能を本牧ふ頭に移転する。そうして山下ふ頭を観光地区に指定して、総合レジャーセンター、東南アジアで最高級のホテル付きカジノセンター、総合飲食センター及び神奈川県および日本全国の観光案内事務所といった観光施設を整備すべきである。合わせて、交通網は高島町より山下埠頭への旧貨物線を復活すべき。
- 山下ふ頭の再開発による地域発展を望みます。
- 山下ふ頭の再開発は、災害時の避難場所や救援物資等の支援場所も兼ねた場所になれば良い。
- 山下ふ頭の一部を牧場や畑に転用し憩いの場として欲しい。アート工房なども良い。

⑥旅客船ふ頭計画

- 全て重要だが、優先順位を付けてスピード感を持って対処してほしい。特に客船ふ頭は2018年までに供用して欲しい。
- 大型旅客船の来港は経済効果も大きいので、是非実現して欲しい。ベイブリッジを通過出来ない大型クルーズ船への対策を急いで欲しい。（8件）
- 大型旅客船の寄港増加により、国内の客船の岸壁確保に影響が出ている。新港地区の開発を望む。

- 東京港が100億円をかけて旅客ターミナルを整備するという記事を見た。旅客船が横浜港より東京港へ奪われないように最大限の努力をして欲しい。
- 客船は絶対港の中心地域に入れるようにするべき。
- 箱根や鎌倉を連繋したような国内クルーズを充実させてほしい。
- ディズニークルーズの誘致や、三溪園・鎌倉等へのアクセスを強化することで国内外の顧客を取り込める。
- 港湾計画の範疇から逸れてしまうと思うが、例えば伊豆大島等への旅客航路を開設し、鉄道・地下鉄との連携を強化すべきだと思う。
- 新規旅客船ふ頭の客船ターミナルにはCIQ施設を整備してほしい。
- 大型客船が停泊できるバース構築はどのようにするのか？本牧ふ頭A突堤を改修して大型客船用とするのでしょうか。もしそうであれば大型客船の乗客等の市内・都内等へのアクセスの公共交通機関（電車・バス・シーバス等）の乗り入れ・駅の導入など検討が欠落していると思います。是非計画に入れて頂きたいと思います。
- 旅客船ふ頭計画に付いては岸壁整備のみでなく、客船ふ頭を中心とした賑わいが創出できるよう公共交通機関（例：新都市交通システムの導入等）も計画すべき。
- 旅客船埠頭など臨海部と、公共交通（特に鉄道）との接続の強化策が必要と思われます。既存の貨物線の旅客転用も検討していただければと思います。
- 本牧埠頭に客船用の施設をつくる際には、陸上交通にネックがあるので、新しいタイプの水上交通を考えるべきである。
- 客船ターミナルは大黒ふ頭に整備すれば入港時の景観を生かせる。

⑦大規模地震対策施設

- 現在の案で良いですが、防災面において意見収集は必要だと思います。
- 計画された緊急物資用の耐震強化岸壁のうち、整備されたものが少ないのではないか。東日本大震災を教訓に整備を早急に進めるべき。
- 海からの高さが低い水辺において、発災時に避難できるよう、高い建物や丘の所までの交通の便があると良いと思う（ケーブルカーetc.）。
- 安全安心 - 津波対策をして欲しい。津波発生直後、港の見える丘公園等高台への避難経路整備や横浜駅周辺の浸水防止など。
- ベイブリッジの下に浮上式防波堤を設置し、また地下に避難場所として防水室を作り、津波に備えて欲しい。
- 「⑦大規模地震対策施設」は、東日本大震災を受けてのことと推測致しますが、⑦以外で紙面の関係で、パンフレットに記されていない平成18年改訂計画と比べて、特に留意したことがあれば教えて下さい。
- 中央防災会議の作業部会「首都直下地震対策検討ワーキンググループ」また東海地震対策の有識者会議などと協議した結論があれば示して下さい。

- 横浜港は東京湾内だから大丈夫だとは思いますが、先の東日本大震災規模の災害には耐える設計になっているのか知りたい。
- 「緊急物資輸送の耐震強化岸壁（12 バース）を適切に配置」「発災後の物資機能を維持できるよう、大型コンテナ船が着岸できる 16m以上の岸壁（9 バース）を耐震強化岸壁に」することで、大規模地震が来た時、横浜港が相応の働きが出来るという根拠がありましたら教えて下さい。
- 耐震強化岸壁の対象とするふ頭の根拠が不明。

⑧環境保全

- 水質浄化の取組みを行う地区を増やしたほうがよいのではないかな。
- 自然再生拠点をもう少し増やしてほしい。
- 緑地を増やし、海岸線や内陸部とネットワーク化したほうが良いのではないかな。
- 経済最優先主義と決別せよ。自然、緑、他の生物との共存共生を推進せよ。既存公園への植樹、緑化拡大推進。動物愛護運動の強化。
- 緑をもっと多く。外国観光客の誘致の強化。アクセスの充実。本牧の強化は無理ではないかな。
- 市民が季節による海生生物の変化を楽しむために、山下公園前や自動車などに干潟を造成してほしい。（3件）
- トライアスロン選手のために水質改善をもとめる。
- もっと環境保護や保全についての具体案が示されるべきであると考えます。国際競争力も大切ですが、それ以前に海そのものの美しさを保ち、次代を担う子ども達にその大切さを学ばせることが重要なのではないのでしょうか。美しい海には自然と人が集まってくると思います。
- 温暖化を充分考慮し、かつ若い世代が興味を持ちながら教育できるような取組を考慮すべきである。
- 海上に風力、太陽光発電を作りエコ・クリーンを発信してはどうか。
- 再生可能エネルギーの導入拡大や消費エネルギーの削減に向けた施策が無い
- 風力発電等の利用、蓄熱とヒートポンプによる使用電力のピークカットなど、電力設備計画により横浜港の発展を目指すべきである。
- レクリエーション等活性化水域の計画には賛成である。ただ、利用が増えるとゴミがふえることを考慮し、ごみ箱設置数の増加等の環境保全対策も併せて行ってほしい。
- 緑地を整備する際に、遊具や広場など子供が遊べる環境を合わせて整備してほしい。
- 横浜港は物流、観光、都市計画の面でも非常に優れた地域と思いますが、環境保全の項目では、藻場、アマモの再生と合わせて、海とつながる河川の水質改善、雨水の流出を抑制する緑地の整備など港湾だけでなく横浜市全体の環境保全コンセプト（あれば）との連携にも触れてはいかがでしょうか

- 金沢地区（白帆緑地、人工海浜（磯浜））の防波堤が海流を妨げ、浜の慢性的な汚れが予想されます。

その他

- 横浜港の港湾計画は国際戦略港湾とリンクさせて国としての港湾作りの施策に基づくべきであるが、今回示された計画案には国際戦略港湾との関係が明らかにされていません。したがって、今回の計画の策定を直ちに止めて頂きたくお願い致します。
- これまで横浜を育ててきた社会、横浜育ち住民を大切に作るやさしさをもっと前面に出すべき。将来の主役を育てるには横浜港の産業経済的価値に偏りすぎている印象。
- やらうとしていることが盛りだくさんすぎる印象を受けるので、埠頭や臨港交通施設計画だけなど、もう少し絞り込んだほうが良い。
- レジャー面中心の賑わい創出か物流機能強化か優先順位を明確にしメリハリがきいた強化をお願いしたい。
- 物流か観光かどちらに重点をおいているのかよくわからない。
- 貨物港、観光港の両方を目指すことには無理がある。横浜港は南本牧ふ頭以外に観光港とする。本牧ふ頭はベイブリッジの外側にあるので観光船ふ頭として利用する。大黒ふ頭の利用は再考すべきである。
- 横浜港を技術開発、環境配慮、安全安心が感じられるモデル港にして欲しい。
- 国際都市横浜の名に恥じないものであってほしいと願います。
- 国際的にさらに競争力のある港にするための計画に賛成です。市民としては『横浜』のイメージのよさをそのままに暮しやすく、市外からは人を招きやすい環境を整えていって欲しいと思います。例えば毎日の道路混雑の緩和やもっと海に親しめる環境、安全など考慮して欲しいです。
- 集い憩いー現状賑わっており拡充理由が不明。
- 公共事業は必要ない。社会をいかに上手く縮小させるかを考えてほしい。特別養護老人ホームをたくさん建ててほしい。
- もっと大胆な開発計画を持たねば、横浜に寄港する船会社から見た時に魅力を感じないのでないかと思われまます。港にとって最も重要な顧客である荷主・船会社等へのヒアリングは徹底的に行って反映されているのか、甚だ疑問です。
- 冒頭の横浜港のあるべき姿の意図がみえないので以降の具体案についても結局自分たちの生活にどう役にたつかわからない。
- 使用する統計値をより新しいものにすべき。
- みなとみらい地区を始めとする観光エリアの建築物外観に関する規制強化を盛り込んでほしい。
- 臨海部の美しい建物と、その背後にそびえる富士山の雄姿を損なわない都市開発を望む。海からの景観を大事にして欲しい。（3件）

- 現在米軍が利用している瑞穂ふ頭（ノース・ピア）を返還してもらい、IRリゾートとして開発するべきである。
- 横浜港に入出港する船舶に、ヨコハママークを付けて新規ふ頭を宣伝すべきである。
- 施設が増えると、雇用促進効果があるため良いと思う。また、港湾施設には女性用の施設が整っていないものもあるので、女性も働けるような施設にしてほしい。
- 京浜港で連携し、どこを利用しても費用が変わらないようにするべきである。
- 24時間開港へ向けて港湾労働組合との関係構築について、記載されていない。
- みなとみらいと各ふ頭間や港内の浜や陸を連絡・周遊する交通網を設置してはどうか。
- 特にヒトの交通の回遊性、モノの輸送の効率性を考えるべし。
- ベイブリッジへのスカイウォーク完全開通を実現して欲しい。そうでないとまた開発をしても中途半端に終わってしまうのではないかという気持ちが強い。
- 港の真ん中に海上警察の施設があるのは違和感がある。港湾地域の入り口に移すべき。
- 「浮体式災害弱者避難用防災システム」として、横浜港内にメガフロートを係留し、その上に災害弱者用宿泊避難施設を構築してはどうか。平常時は、障害者、要介護者が海を見ながら憩うことができる有料の短期宿泊ケア施設とマリンスレクリエーション用活動拠点施設とする。
- みなとみらい線、市営地下鉄の延長などの施策と組合わせてほしい。
- 輸入した牛肉等の検疫を十分にしてほしい。
- 防災・防犯等では米軍が使用する箇所への考慮が必要。
- 埋立てにより消失した河川を復元して欲しい。
- 現時点の情報では判断できず、アンケートに回答できない。それぞれの事業費やより具体的な内容を知りたい。（14件）
- 計画に位置付ける施設が本当に必要な施設か吟味すべきである。
- 横浜市の経済の1/3に上る貢献をしている港の将来計画を策定する「横浜港のグランドデザイン」検討委員会を立ち上げて、港湾計画審議会の上に位置付ける必要があると思います。
- 時機に即応した計画だと思う。特に環境を重視した具体案は良いと思う。
- 全面的に賛成。
- 平成18年改訂計画と今回の意見募集パンフレットにある「市民が集い、憩う港」「安全・安心で環境にやさしい港」に記されている目標が異なっていたら、それを教えて頂けないでしょうか。
- 南本牧ふ頭に「横浜空港」を作ってほしい。

- 大黒ふ頭の開発を提案する。ふ頭内に大規模に盛土し、旅客船さん橋、パノラマ公園、ホテルやショッピングセンター等を整備すべきである。
- 開港広場から大さん橋までを商業地域として開発すべきである。
- 大さん橋の旧ターミナルビルをイベントスペースとして活用すべきである。
- 全天候型交通施設や荒天時に海中の様子を見ることが出来る施設など、新しい発想を盛り込んだ計画として欲しい。
- ヨコハマという町の特徴をだすために、幕末～戦前までの建築物を復元し、横浜独特の空気が感じられる街として欲しい。
- 初代横浜駅、二代目横浜駅を復元し、新橋駅との間に蒸気機関車を定期運行させてほしい。
- 北洋船、黒船を復元し、周遊できるようにしてほしい。
- 本牧ふ頭内を一般公開し、市民と親しみを持ってもらってはどうか。
- 外国船に付着している外来生物の対策はどのようなになっているのか教えてほしい。
- 横浜港埠頭（株）の前身が横浜港埠頭公社ということでしょうか。